

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

学校の教育目標(目指す子ども像)

◎健康で明るい子ども(重点)

心も体も健康でたくましい児童

○よく考えすすんで学ぶ子ども

自ら課題を見付け、主体的に行動し生活に生かす児童

○仲よく助け合う子ども

互いに認め合い、人を思いやる豊かな心をもつ児童

達成のための方策

★ 重点目標として「健康で明るい子ども」
として健康増進に取り組む安全で、安心できる学校
考える心を高める学校
お互いに尊敬し合う学校
若さあふれる健全な学校家庭・地域に期待する役割と連携
・早寝早起き朝ごはん ・親子の会話
・しつけの継続 ・家庭学習 ・家で一仕事
・挨拶 ・手をかけ、目をかけ、声をかけ
・ボランティア活動 ・地域行事への参加日本国憲法
教育基本法
学習指導要領
都の教育目標
市の教育目標
「あふれる元気」「かがやく心」
「仲間とともに」「はばたけ未来へ」

教職員の実践・・・目指す教師像

確かな指導力をもち、人権を尊重し、子供の可能性を引き出すために進んで研究し、協力して教育実践に取り組む
保護者や地域から信頼と尊敬を受ける
厳正な態度で勤務し、職務を全うする
自ら率先垂範し、児童への範を示す

- ・週案簿による計画的実践と毎週の提出
- ・いじめの根絶・体罰の厳禁・不登校対応
- ・健康第一・食物アレルギーへの対応
- ・認める、励ます、生かす
- ・挨拶の励行 ・時間の厳守
- ・相互協力体制（OJTの推進）
- ・報告、連絡、相談

研究の充実

昨年度に引き続き、「体力の向上」を見据え、「運動を楽しみながら、自ら体力を高めようとする児童の育成」を主題に研究し、生涯を通して運動に親しみ健康な生活を送るための基礎を育てる。

オリンピックパラリンピックレガシー教育
(興味関心を引き出した体力・運動能力・健康教育推進)

- 体育授業の教材の工夫と授業の充実
- 児童の体力増強に向けた活動の励行
- 発達段階に応じた体力づくり
- 体力テストの活用、食育の推進
- 薬物等に関する発達段階に応じた指導

ESD(持続発展教育)の推進

○体験的な活動の充実、学年の発達段階に応じた適切な体験学習の持続的な取り組みを実施。また保護者・地域との連携推進等、地域教育資源の活用。
○環境教育の充実、恵まれた自然環境の利用SDG'sを柱とした教育活動推進。

「健康で明るい子ども」を育てるために、体育指導・保健指導・食に関する指導の工夫及び改善を図る。【体力調査：都平均超】【「スポーツが大切」肯定的評価 95%】

- ・ 自らの心身の健康に関心をもち、体力向上を図るとともにすすんで運動に親しむ態度を身に付けさせるため、効果的な体育的活動を計画的に実施する。
- ・ 感染症禍で得た経験に基づき、保健衛生・生活習慣改善を促すとともに、健康安全に関する教育を推進する。さらに食に関する基礎的な内容の定着を図り、健康な食生活を営もうとする意欲や態度を育てる。

「よく考えすすんで学ぶ子ども」を育てるために、全教育課程を通して主体的な学びを推進する。

- ・ 家庭・地域との連携の下、児童の学びの基盤である生活習慣の確実な定着を図るとともに「人・自然・本とのかかわり」を重視した活動を通して、豊かな人間性・社会性を育てる。
- ・ 日常の授業を充実させ、児童の学習意欲を喚起するとともに、基礎的・基本的な知識及び技能を習得する学習と活用・探究的な学習とのバランスのとれた指導に取り組み、児童の企画力・提案力・運営力・表現力等の育成を図る。
- ・ 市全体で取り組んで来た GIGA スクール構想の下、ICT活用を継続し、児童のコミュニケーション能力を高める。
- ・ 意図的・計画的に補充学習の時間を確保し、小学校卒業までに全児童に習得目標問題の確実な定着を図り、今後の変化の激しい社会の中で生きていくための基礎的な学力を育てる。

「仲良く助け合う子ども」を育てるために、心の教育、人権尊重の教育を推進する。

- ・ あらゆる偏見や差別をしない人権意識を高め、自他を尊重し、認め励まし合う心情や態度を育てるとともに、市の方策に従った「いじめ防止・対策」を滞りなく実施し、人間関係を築くためのコミュニケーション能力の基礎を養う。
- ・ 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会の機能強化を図り、児童一人一人の発達特性と環境面を考慮しながら、個別指導計画や学校生活支援シートを作成し、より一層のインクルーシブ教育を推進する。

学びの連続や育ちの連続を重視した保・幼・小連携、小中一貫教育、地域連携を推進する。

- ・ 地域運営学校として学校運営協議会を軸とした学校経営を実践し、家庭・地域と連携し、地域とともに次代の地域社会形成者を育て、持続発展可能な社会づくりを目指す。
- ・ 近隣幼稚園・保育園及び別所小中学校との園児・児童・生徒間交流や教職員連携を通して、系統的で一貫性のある指導実践を積み重ね、子供の成長・発達を見通した教育を推進する。

指導の重点キーワード

- ・ 心身共に健康な児童の育成と研究活動
- ・ 授業力向上、教科指導(ICTを積極活用し興味関心、意欲を引き出す)
- ・ 道德教育の充実推進
- ・ 異学年集団活動推進と総合的な学習の時間での体験的活動
- ・ 特別活動の充実を通じた他者との関わり
- ・ コミュニケーション力を重視し、挨拶や礼儀等の醸成
- ・ いじめ防止の常時活動
- ・ 不登校児童への様々な個別対応
- ・ セーフティ教室、情報モラル等、安全確立
- ・ 計画的・系統的なキャリア教育推進

特色ある教育活動

- ◆「八王子市小中一連携教育構想」に基づき「学力・体力」「コミュニケーション力」「企画力」「提案力」「運営力」「表現力」の育成。
- ◆小・中学校の教員が相互に授業参観し児童・生徒の実態や課題を共有。
- ◆中学校部活動体験、別所フェスティバルへの合同開催等、多様な教員・児童・生徒交流による連携を進展させる。
- ◆高学年一部教科担任制を実施し、各担任が自身の専門教科についてより深く研究し、教材や授業展開を工夫することで、児童の興味関心を引き出す授業を目指す。
- ◆モジュールの活用に取り組み、基礎・基本の定着を図る。
- ◆毎週1回、朝読書やボランティアによる読み聞かせを実施。読書週間や図書委員会による本の紹介などの読書推進運動、学校司書及びボランティアを活用して、図書室授業活用を推進。
- ◆1・2年で外国語に触れる活動を学級・学年裁量の時間でいき、3・4年生ではコミュニケーションを図る素地を、5・6年生では教科の目標に沿って英語の運用能力を養う活動を展開。
- ◆野鳥観察、稲作体験、盲導犬・聴導犬とのふれあい体験等、地域協力者との「かかわり」を重視した活動を計画的に実施する。
- ◆オリパラ教育のレガシーを活用、児童の健康や望ましい体力作りを推進する。また、障害者理解教育を充実を図る。
- ◆保育所・幼稚園と連携を密にし、小学校生活に円滑に接続するよう生活科と他教科の関連を図り、スタートカリキュラムを組織的に実施。